

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月1日

事業所名 きらり水島

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・粗大活動が出来るエリアが加わり、活動の幅が増えた。	
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			・バリアフリー化や老朽化への対応は、法人で検討し、整えていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントシートや課題の整理表を活用し、職員間で子どもの状況把握を実施している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○	夏休みに、レクリエーション活動を実施した。	土曜のみの開所であるため、休日や長期休暇に応じた活動計画までには至っていない。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼とミーティングノートで予定や留意事項の確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		昼礼や終礼にて、利用児の支援計画書の会議を実施している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		姿の共有や支援の振り返り、対応についての話し合い等を行っている。参加できなかった職員は書面で確認できるようにしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○			
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		連絡帳や電話連絡・学校訪問等で情報交換している。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		ほぼ当事業所の児童発達を利用していた利用児が多いため、幼児期の状況が把握できている。 新規の利用児は所属園やセンター・事業所からの引継ぎを受けている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		現在は小学二年生までが対象児となっているが、他事業所へ移行する場合は保護者の承諾のもと、情報提供している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		発達支援に関する研修は、センターや事業所と研修を計画実施している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	近隣事業所の行事への参加や、レクリエーションで外部へ出る機会はあるが、今年度利用児外の交流を目的とした活動は企画できていない。	地域に出向いたり、意図的に他者との交流を図れるような活動を設定していく必要がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	今年度は幼児保護者を対象として実施した。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	事業所単位で保護者会は作っていない。勉強会や法人のおやじの会等に案内している。	保護者の特技を活かしたり、保護者同士が交流できる場や機会を企画していくことが、今後の課題。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		レクリエーションのボランティアを募集する等、地域住民に関わって知ってもらうための工夫が必要。
非常時	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		訓練時に、非常食・避難グッズの使用や、保護者への一斉メール連絡等を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		今年度は外部講師を招いて実施。事業所で、子どもの人権を守るための目標を立てて、毎月振り返りを行っている。	

等 の 対 応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリや事故が発生した際、書面に整理し、対策や再発の確認を行っている。	